

# 医学系研究に関する情報公開および研究協力のお願

聖隷浜松病院では、当院の臨床研究審査委員会の承認を得て、下記の医学系研究を実施しております。

研究の実施にあたり、対象となる方の既に存在する試料や情報、記録、あるいは、今後の情報、記録などを使用させていただきますが、対象となる方に新たな負担や制限が加わることは一切ありません。

ご自身の試料や情報、記録を研究に使用してほしくない場合や研究に関するお問い合わせなどがある場合は、以下の「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。研究への参加を希望されない場合、研究対象から除外させていただきます。研究への参加は自由意思であり、研究に参加されない場合でも、不利益を受けることは一切ありませんのでご安心下さい。

研究課題名	境界不明瞭なバレット食道癌の臨床病理学的特徴に関する多施設共同研究
研究責任者	研究代表者: 仙台厚生病院 消化器内科 平澤 大 当院研究責任者: 消化器内科 海野 修平
研究実施体制	分担研究者: 仙台厚生病院 消化器内科 田中 一平 当院と仙台厚生病院との共同研究
研究期間	臨床研究審査委員会承認日 ~ 2023年 12月
対象者	2010年1月~2022年9月に仙台厚生病院もしくは聖隷浜松病院にて内視鏡治療(ESD)または外科手術を施行されたバレット食道腺癌の患者さん
研究の意義・目的	近年ピロリ菌感染率の低下に伴い、逆流性食道炎が増え、それに伴うバレット上皮およびバレット食道腺癌が発見される機会は増加しています。バレット食道腺癌も早期癌で発見された場合、内視鏡治療が適応となるため、腫瘍の範囲診断は極めて重要となります。しかし、バレット食道腺癌は他の消化器癌と比較しても上記のように炎症を背景に発生する影響のためか腫瘍の境界が不明瞭な症例にしばしば遭遇します。現時点で境界不明瞭なバレット食道癌の臨床病理学的特徴の詳細は未だ不明な点が多いです。本研究では境界不明瞭なバレット食道腺癌の臨床病理学的特徴を明らかにすることを目的とします。バレット食道癌は欧米では多いものの、日本においてまだ症例数の少ない疾患であるため、2施設の共同研究を予定します。
研究の方法	対象患者について、診療録から以下の項目の調査を行う。 年齢、性別、既往・併存疾患、内服薬(PPI・抗血栓薬内服の有無)、飲酒歴、喫煙歴、内視鏡所見として背景粘膜(SSBE/LSBE)、病変の腫瘍径、周在性、腫瘍の存在方向、腫瘍の色調、食道裂孔ヘルニアの有無、逆流性食道炎の有無、病理学的特徴として肉眼型、組織型、深達度、脈管侵襲、垂直・水平断端に関して。病理検体については、腫瘍腺管の間隔・深さ・横幅などを腫瘍部と非腫瘍部で計算して検討を行います。
個人情報の取扱い	本研究で利用する資料や情報、記録からは、直接ご本人を特定できる個人情報は削除した上で、研究成果は学会や雑誌等で発表されます。取り扱う情報は、厳密に管理し、外部に漏洩することはありません。なお、個人情報の利用目的等について詳細をお知りになりたい場合は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
個人情報開示に係る手続き	個人情報開示の手続きについては、「問い合わせ窓口」にご相談下さい。
資料の閲覧について	ご要望があれば、開示可能な範囲で、この研究の計画や方法について資料をご覧いただくことができます。ご希望の方は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
問い合わせ窓口	聖隷浜松病院 消化器内科 (氏名) 海野 修平 TEL:053-474-2222(代表) 消化器内科外来 9:00~17:00 平日